

### <昔々の成木 4> 太平洋戦争の頃

太平洋戦争当時、成木は山間部のため空襲のような大きな被害はありませんでしたが、戦争の影は成木にも差していました。

#### 釣鐘が無くなる

昭和16年(1941)、太平洋戦争が始まると、軍需物資生産による金属類の供出(ここでは兵器の材料に差し出すこと)が進められたのです。国家総動員法といって、金属で作られた銅釜などの日用品が回収されました。そしてやがて梵鐘も対象とされました。市内で18梵鐘が供出され、成木からは延命寺鐘(7丁目)と慈眼寺鐘(6丁目)が供出されました。幸いなことに高水山竜学寺(常福院:七丁目)の鐘は供出を免れました。



高水山竜学寺釣鐘

#### 学童疎開

戦争が激しくなると、都市部から田園地区へ人々の疎開が始まりました。文豪吉川英治氏もこの頃疎開しています。成木村でも学童疎開を受け入れていました。安楽寺を寄宿舍として東京市芳水(ほうすい)国民学校(現品川区立芳水小学校)の児童が疎開していて、成木国民学校(現成木小学校)に通っていました。

令和4年の夏休みには芳水小学校の学校運営協議会の方々が成木小学校に来校し、交流したいとの話もありました。現在は、上成木で林業体験のために訪れているそうです。

#### 空が赤く染まる

昭和20年3月10日に東京大空襲がありました。罹災者は100万人を超え、死者も9万5千人を超える被害がありました。青梅は大きな空襲はありませんでしたが、この夜成木五丁目あたりから見える東の空は、とても明るかったそうです。成木からもわかるほど大変な空襲でした。

### <昔々の成木 5>

#### 昭和30年代?の頃 戦闘機の墜落

以前、体育館の廊下に掲示してあった「成木今昔絵巻」には、飛行機が墜落した絵が描かれていました。なんだろうと思っていたのですが、本当に成木地区に墜落したことがあるそうです。様々な書物を読みましたが、記述はありませんでしたが、地域講師



の若林 博司先生の話では昭和三十数年頃に二本竹の山中(成木小の裏山)にアメリカのF86戦闘機が墜落したことがあったそうです。なんでも学校を避けて二本竹に飛行機が落ち、搭乗していた准将は、近くの田んぼにパラシュートで降り立ったそうです。

【出典】新たなる出発 青梅市立第八小学校閉校記念誌 1996 青梅文化財ニュース第109号 1996

【監修】若林 博司 鈴木 和子